

NO! リニア

No. 4 9

2011年12月7日

JR東海労働組合
リニア反対プロジェクト

リニア、環境アセスに着手 住民無視の見切り発車!

新聞報道によると、JR東海はリニア中央新幹線（東京～名古屋）沿線の環境影響評価（アセスメント）について、12月6日現地調査に着手することを明らかにしました。2027年開業のためには、2014年中に工事に着工しなければならず、アセス調査に必要な2年間という期間を差し引くと、今年中にも着手しなければならないというものです。まさに、建設ありきの強行スケジュールと言わざるを得ません。

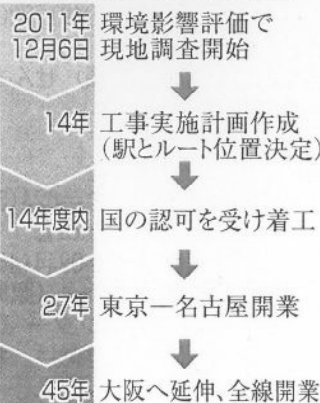
JR東海は、アセスについての説明会を沿線各県の主要都市で行ってきました。しかし、説明員は一方的にマニュアルを読み上げるだけで、参加者からの質問に対してはまともに回答できない事例が相次いだのです。やったというアリバイづくりなのです。

JR東海は住民の意見をどう受け止めているのでしょうか？

原発でのヤラセ問題が社会的に糾弾されています。JR東海も同じ轍を踏もうとしているのです。事故が発生したり、自然が破壊されてからでは取り返しがつきません。

「自然破壊が分かっても、
問題ない」と発表するのにか？

リニア中央新幹線 建設に向けた今後の流れ



環境影響評価は、国からの認可を得て着工するのに必要な手続き。駅周辺は直径五キロ、ルートは幅三キロの範囲で実施する。大気

猛禽類の生息実態は、十二月から翌年八月までの営巣期に関する二年分のデータが必要。一四年度の着工には今月中の調査開始が不可欠だった。

詳細な設置場所を絞り込む。

環境影響評価（アセスメント）の現地調査に着手する。希少な動植物の生態系や水資源への影響を約二年間で調べ、一四年度中の着工に向けて駅やルートの詳細な設置場所を絞り込む。

JR東海は六日、二〇二七年に開業を目指すリニア中央新幹線の東京～名古屋沿線で、環境影響評価（アセスメント）の現地調査に着手する。希少な動植物の生態系や水資源への影響を約二年間で調べ、一四年度中の着工に向けて駅やルートの詳細な設置場所を絞り込む。

リニア着工向け環境アセス着手

JR東海、2年間

JR東海は六日、二〇二七年に開業を目指すリニア中央新幹線の東京～名古屋沿線で、環境影響評価（アセスメント）の現地調査に着手する。希少な動植物の生態系や水資源への影響を約二年間で調べ、一四年度中の着工に向けて駅やルートの詳細な設置場所を絞り込む。

や水、景観などへの影響を調べ、関係の地方自治体に提出する。六日からは、まずイヌワシやオオタカなど生息数の減少が懸念される猛禽類の生息実態や行動範囲を確認。沿線の東京、神奈川、山梨、静岡、長野、岐阜、愛知の七都県で一斉に開始する。生息を